

教育目標:	○よく考える子	○思いやりのある子	○じょうぶな子	○進んでやる子
目指す学校像:	【安心】一人一人の居場所と心身の安全・安心がある学校 【信頼】保護者・地域と協力し、信頼される学校 【成長】互いに高め合い、喜びや達成感を抱ける学校 【元気】エネルギーに満ちた活力ある学校			
目指す児童・生徒像:	○正しい行動への判断基準に基づき、人のため、社会のために役立つ行動ができ、困難を乗り越え、粘り強く挑戦することができる子。			
目指す教師像:	○児童、保護者、地域の方から信頼される教職員 ○教育への情熱、創意工夫と向上心をもつ教職員 ○心身ともに健康に生活することの意義と方策を学び、保護者や地域と共に児童が健やかに育つよう努める教職員 ○組織の一員として学校運営に参画できる教職員			

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	今後の課題	学校関係者評価記入欄
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
確かな学力の育成	実際の社会や生活で役立つ知識や未知の状況でも対応できる判断力等の自立と自己実現を図る資質や能力を育てる。	すべての児童にとって、学びやすい環境を整備する。	個に応じた指導の充実やICT機器の積極的な活用など、具体的な手立てを工夫する。	3	3	4	3	・タブレット端末については、発達段階に応じて各学年が系統的に指導し、積極的に活用する。そのために、教員は校内研修会等でICT活用のスキルを磨く。 ・タブレットを活用した授業の様子や児童の学習状況について、保護者・地域により積極的に発信する。	・ICTを使うことが日常になってきて、タブレットを使っているクラスも多くなってきている。丁寧に指導してもらっていると感じる。 ・アナログとICTとの融合がよいのではないかと。AI時代に生きている子どもにとってタブレットの活用は当たり前になる。文字の書き方も大事にしながら、発達段階に応じる等の工夫が大事だと考える。
		主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行う。	校内研究やOJT研修の充実を図り、教師の授業力や指導力の向上を図る。	/	4	/	4	・児童が主体的に表現し、学び合う授業づくりのために、算数科の校内研究の学びや成果を生かす。 ・「主体的で対話的な深い学び」の実現のために、個別最適な学びと協働的な学びを授業に取り入れる。また、教員同士で授業を見合い、効果的な指導方法を学び合う。	・習熟度別少人数算数の授業は取り組み方がそれぞれのレベルにマッチしていて感心した。子どもの理解度に合わせた学習が進められていて、先生方が連携している様子がよく分かった。 ・何をするか子どもが自分で考えながら進める学習形態も取り入れられていた。一斉指導とハイブリットしながらやっていくのがよい。
豊かな心の育成	人権と生命を尊重する教育活動を通して、相手を思いやり仲間を大切にし、思いを寄せ合い響き合える心温かい児童を育てる。	基本的生活習慣の徹底を図り、規律と秩序ある学校づくりを推進する。	あいさつ運動の取組、「八小生活の約束」をもとに基本的生活習慣を身に付けさせる。	4	4	3	3	・よりよい人間関係を築くために「あいさつ」が大切であることを繰り返し伝えていく。また、相手意識をもたせたあいさつの指導を行い、場に応じたあいさつができる児童を育てる。 ・児童の生活面の課題を学校・家庭・地域で共有し、関係諸機関と連携して支援に当たる。	・あいさつに関しては課題が残る。特に集団の場面や顔見知りでない人に対してはあいさつしにくいようだ。会釈でもよいからあいさつをしてほしい。 ・子どもには、知らない人に対する警戒心がある。地域の方があいさつを見せたり、あいさつをされることはうれしいものだと言えたりするとうい。また、CSで何か取り組めるとよいと思う。
		自尊感情や自己肯定感を育み、豊かな心を育てる。	いじめの予防や早期発見・早期対応への取組や道徳・特別活動等で思いやりの心を育てる。	/	4	/	4	・「特別の教科道徳」や異年齢交流、学級活動等の集団活動を中心に、人を思いやり、助け合う気持ちと態度を養う。 ・児童理解を深め、児童に役割や活躍の場をもたせ、褒め励ます指導により児童の自尊感情や自己肯定感を育む。 ・人権教育のさらなる充実を図り、いじめのない学校をつくる。	・今年度はパラエティに富んだ人権標語ができた。今、八小全体が落ち着いている。読書時間の読み聞かせ等いろいろな人が学校に来て見守られているということを感じられることが大切。八小の取組は、児童会フォーラムを通して他校にもよい影響を与えていると思う。 ・騒がしくなると「静かに」の合図を出す等、周囲の状況に気付ける子どもが多い。また、グリーンボランティアをしていると、声をかけてくれる子どもが増えた。「ありがとう」という言葉が言える雰囲気が増えたと思う。
健やかな心と体の育成	健全な生活習慣を身に付け、生涯を通して運動を楽しむとともに、健全な心を維持できる資質・能力を育てる。	地域や保護者と連携して、体力の向上・食育の推進・心身の健康・安全への意識の向上を図る教育活動を実践・継続する。	体育の授業改善や一学級一取組等での取組において、多くの児童が楽しめるよう工夫する。	4	4	3	3	・教員が授業を見合い、学び合うことで、体育科のさらなる授業改善を進める。授業改善により、運動の質と量を確保し、児童の体力と運動能力の向上を図る。 ・休み時間に校庭遊びに親しむ機会を積極的に作り、家庭や地域での運動習慣につなげていく。	・競争を好まない子どもも多い。しかし勝たいたいという思いが運動能力や体力の向上につながることもある。一人を責めない、でも競う、トライすることが大切だと思う。 ・運動委員会の「遊びの広場」がとてもよい。こうした機会を増やし、年上の子の知っている遊びをたてわり遊び等で広めていくとよい。
		児童が自ら心身の健康を大切にしよう、計画的・継続的に働きかける。	児童が自ら心身の健康を大切にしよう、計画的・継続的に働きかける。	/	4	/	3	・栄養士による食育指導、給食委員会の給食放送、給食日よりや学校ブログ等による情報提供、学校図書館司書と連携した読書旬間メニュー等の取組を継続・充実させる。 ・健康に対する意識向上のため、養護教諭や学校薬剤師による保健指導、保健室掲示板の活用等の継続・充実を図る。	・食育等を通して、体調を自分で管理する意識を育てることが理想だと思う。体験を通して得るものは多い。 ・「おとなの国分寺学」のこくべジ講座は、意識の高い保護者が参加してくださった。来年もまた続けていきたい。参加者が一人でも多くなるよう工夫したい。
家庭・地域との連携・協働	コミュニティ・スクール組織を活用し、保護者・地域と連携し、地域人材や知的・文化的・歴史的環境を生かした教育活動を国分寺学として位置付け、推進する。	組織を活用して、人材や環境等、地域の教育力を引き出し、連携を強化する。	学校支援ボランティアや地域関係機関と連携した体験的な地域学習(国分寺学)の充実を図る。	4	3	4	4	・国分寺学を軸として、八小の地域学習の継続や充実、発展のために、特に高学年の年間計画の整備や教材の工夫、人材の確保などを行う。 ・地域学習や地域と連携した諸活動の継続・充実のために、CS組織を積極的に活用し、CSと協働して活動を進めていく。	・国分寺学を軸に、いろいろな活動がいろいろな視点でできた。先生方も意欲的、人材も豊富。私たちCSができることを広げていきたいなと思う。 ・防災に関する学習もCSIに落としてこんで、次年度できるとよい。防災について学ぶことで、子どもが地域で貢献できる。子どもたちが一生懸命になると家庭でも取り組んでいけると思う。
		学校の情報を発信し、開かれた学校の具現化を目指す。	各種お便り、CS実行委員会、学校公開、学校説明会、ブログ等を活用して情報を発信する。	/	4	/	4	・学校の教育活動について学校だよりや学校ブログで発信し、具体的な取組や児童の様子を伝えていく。 ・スクールメール、学校連絡ツールを活用し、確実に情報が届くよう周知徹底する。また、学校やCSの取組を積極的に広報し、保護者・地域が参加・協働できるようにする。	・町内会の回覧板で「学校だより」を見て、八小の「校長室しゃべり場」に参加してくださった方がいた。学校だよりの巻頭言は読みものとしても読まれている。学校の取組を伝えるツールとして、役割を果たしていると思う。